

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	都島区
学 校 名	東都島小学校
学校長名	高橋 純一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・東都島小学校では、第6学年 95名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語では全国平均より3.2%、算数では9%上回ったが、理科では2.1%下回った。また、無回答率でも国語と算数では、全国平均を1%以上下回ったが、理科においては、1.5%上回った。各教科の内容や領域等でみると、国語では「話すこと・聞くこと」「読むこと」の分野に苦手意識があるようである。算数では「数と計算」の分野が、平均正答率が7割以上ととびぬけて高い。理科では「エネルギーを柱とする領域」において、全国平均より極端に低く、平均正答率も3割台と厳しい状況である。このような結果から、本校では、どの教科においても「読む力」「聞く力」そして「理解する力」を養っていくことが必要であり、主体的対話的で深い学びをより実践していかなければならない。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

- [国語] 平均正答率は70%で、大阪市平均より5%、全国平均より3.2%高い。言葉の特徴や使い方に関する事項は83.1%、我が国の言語文化に関する事項は87.2%と、平均正答率が高く、しっかりとした理解・知識の定着がみられる。
- [算数] 平均正答率は67%で、大阪市平均・全国平均より9%高い。どの領域も全国平均と10%近く平均正答率に差がある中で、データの活用領域だけは、6.3%の差に留まっている。理解に個人差がないか確認が必要である。
- [理科] 平均正答率は大阪市平均と同じく55%と、全国平均より2.1%下回った。A区分の粒子を柱とする領域のみ平均正答率は全国平均を上回っているが、その他の領域では、下回っている。質問紙から他教科より興味関心は高いことがうかがえるので、学んだことを定着できるようにしていく工夫が必要である。

質問調査より

「学校へ行くのは楽しいと思いますか」において、肯定的回答は77%と80%代の大阪市や全国の平均より低い。
 「読書は好きですか」において、肯定的回答は49%と極端に低く、本校の子どもたちの読書離れを痛切に感じる。また、大阪市や全国平均よりも20%程度低い。
 「国語の授業の内容はよく分かりますか」「算数の授業の内容はよく分かりますか」「理科の授業内容はよく分かりますか」において、肯定的回答は国語・理科に対しては70%代であるが、算数は80%代と多くの児童が学習内容の定着に自信を感じとれている。

今後の取組(アクションプラン)

本校では、今年度から国語の研究に移行し「正確に理解し、言葉でやりとりできる力の育成」をめざして進めている。「正確に読み取る」「自分の考えを持つ」「伝え合う」「考えを広げる」ことを授業内で取り入れ実践しながら研究を進める。すべての学年での研究授業・授業検討会・研修会を実施し、学校が一丸となって授業力向上に取り組むことで、子どもたちの苦手分野を克服し、学力の定着に取り組む。また、読書離れが進む中、地域による読み聞かせや図書館開放など日常的に読書をする機会を設けるだけでなく、読書ノートの活用や年間読書数の表彰など、子どもたちの意欲・関心に重きを置いた活動も取り入れる。そして、ICT機器の活用についても、これまでのICT活用事業モデル校・拠点校としての取組を継承し、「日常づかいのICTで育成する情報活用能力」を柱として、校内でICT活用実践研修会を行い、教職員のICT活用の幅を広げながら、五感を駆使した「わかりやすい授業」に今後も取り組む。

日々の授業の1時間1時間を大切に、落ち着いて意欲的に学習する環境を整えながら、誰一人取り残さないを今後も推進したい。